

令和8年第1回松戸市文化スポーツ推進審議会 議事録

1. 開催日時	令和8年8月24日（月）14時～16時30分
2. 開催場所	松戸市役所 新館7階 大会議室（Zoomによるオンライン含む）
3. 出席者等	【委員】（名簿順）13名 熊倉委員（会長）、田簀委員（副会長）、小島委員、 岩下委員、菊田委員、坂委員、局委員、大成委員、 菊地委員、羽賀委員、森委員、山根委員、和座委員 【松戸市】 副市長、文化スポーツ部長、みらい教育創造部長、生涯学習部長 文化スポーツ政策課長、文化芸術創造課長、文化施設担当室長 スポーツ振興課長、スポーツ施設担当室長、国際推進課課長 観光推進課長、教育政策推進課長補佐、社会教育課長補佐、 文化財保存活用課長、博物館次長、戸定歴史館長、 図書館長、事務局（文化スポーツ政策課）ほか
4. 傍聴者	1名
5. 次第	議事 1 令和8年度以降の諮問事項について 「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針」のアクションプラン に関すること 2 その他
6. 資料	【配付資料】 資料1 令和8年度以降の審議会の進め方について 資料2 「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針（案）におけ るアクションプランについて 資料3 文化複合施設基本構想（案）の概要について 参考資料 今後の松戸版アーツカウンシルを検討するための資料 資料4 令和7年度第3回文化スポーツ推進審議会・会議録
7. 議事	以下のとおり

開会

・伊藤副市長挨拶

議事

1 令和8年度以降の諮問事項について

「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針」のアクションプランに関すること

(1) アクションプランについて

(事務局)

資料1、2を用いて説明。

(熊倉会長)

説明にあったとおり、今年の5月18日に答申を市長へ渡す手交式が行われた。市長にも概ね好意的に受け取っていただいた印象である。

先程副市長からの挨拶にもあったが、我々の委嘱期間が一部の方を除いて今年11月に終わる。推進方針から今度アクションプランの策定が次の審議会の役割になってくるので、引き続きぜひ皆様に関わっていただき、ご議論いただきたい。

今日は、任期の最後の会ということで、アクションプランを作るにあたって、皆様方から何かご意見などがあれば、一言ご発言をいただけると、策定に向けて参考になるかと。

大きく3つの柱となりそうな事柄が挙げられたのでそれに関しても、説明があるようなのでそれを聞いてからということでもいいかと思う。

5つの戦略にまとめたとはいえ、全方位的に見ているものなので、何かご意見があればいただきたいと思う。

また、実施評価とあったが、今の時点でアクションプランも策定していないのに、評価方法を単純にKPIというふうに決めるべきではないのではないかと個人的には思う。

来年度、令和9年4月から、審議会でまとめたアクションプランが実施されて、来年度の終わりぐらいには、進捗状況の報告があって、評価をしなければいけないという点に向けても、何か考えていただけるといいかなというふうに思っている。

(意見なし)

(2) 文化複合施設について

(熊倉会長)

資料にある、文化複合施設の方がいろいろ気になるかと思うので、一度そちらの方の説明に移っていただこうと思う。

(事務局)

資料3を用いて説明

(熊倉会長)

松戸市で検討を進めている文化複合施設について、基本構想案の概要をお示しいただいた。

この基本構想は、施設のコンセプトや機能など大きな方向性をまとめたものかと思うが、スケジュール案を見ると、今年度中に固めなければいけないということで、時間がない。

本件について意見交換をしたいと思うが、いかがか。

(局委員)

私たち音楽協会にとって、とても大切な項目があると思って資料を見ていた。

施設の老朽化がある中、松戸の文化施設で一番古いのは、市民会館かと思う。

市民会館は、約1,200人が入る舞台(ホール)があるが、何年か前から、そこを取壊し新しいものを作っていくみたいな話を、いろんなところで聞いていた。

しかし、この構想案を見てみると、音楽機能には注目されていない。

市としては、森のホール21(松戸市文化会館)があるじゃないかというお考えかとは思う。ただ、森のホール21の大ホールは2,000人規模のかなり大きなもので、響きはともいいが、一般市民の20人から40人ぐらいの規模の団体が使うに大きすぎる。

じゃあ(森のホール21の)小ホールがあるじゃないかと思われるかもしれないが、小ホールには、反響盤設備が常設されていない。ホリゾン(照明を美しく見せる幕や照明そのもの)はあるが、簡易の反響盤を置かないとクラシックの演奏はできない。

そのため、ほとんどのクラシックを愛好する人たちの演奏会というのは、ピアノの発表会であれば森のホール21がよく使われるが、団体の演奏会となると、小ホールでは全然響かない、床も絨毯張りで響かないというその演奏に対してのデメリットの部分が多すぎて、使わないという現状が多々ある。

もう1つ、市民劇場について、松戸駅近くにあり、300人規模の施設だが、ここも響かない。

そもそも劇場と言う名前からわかるとおり、音楽ホールではない。児童合唱団の子どもたちは、地域性を考えて市民劇場で響かなくても、バウンダリーマイクという残響を作るマイクを置いて演奏をしているという状態である。

団体からしてみると、音楽に長けたちょうどいいホールが松戸にはないという現状。そのため、もし市民会館を建て替えるなら、ちょうどいい音楽のホールができるかもしれないと思っていた。

そこにこの構想案が出てきたので、これは私は声を大にして皆様にお話ししなければいけないと感じた。

松戸にちょうどいいホールがないことによって、今何が起きているかというと、近隣のホールにみんな行ってしまってる。例えば、流山市のスターツ流山おおたかの森ホール、こち

らは可動式の座席だけれどもすごく音楽に適した残響の設備も整っている。もう1つは、そんなに新しくはないが、アミュゼ柏（クリスタルホール）も500人規模のホールで、そこらにも松戸からの団体が流れていってるという状況。他には鎌ヶ谷市にあるきらりホール。こちらも500人規模で響きがいいので、松戸の団体が使うことが多い。かつしかシンフォニーヒルズのアイリスホールも、300人規模だが、アカペラや弦楽、クラシックをするためには非常にいい設備なので、利用する松戸の団体は多い。

周りの市の方からしてみると、松戸の団体が流れてくるから、団体が施設を使えないと言われる。逆に松戸の団体は本当は松戸でやりたい。来ていただく方々も松戸の方が多いし、自分たちで鍛錬してきたものを松戸で発表して松戸で広げていきたい、松戸の人たちに見に来てもらいたいというふうに思いながらやっている。

まだこのホールが構想の段階であるならば、可動式だとか会議施設という面も含めてもいいと思うが、少し音楽であるとか、そういう芸術面に関しても、もう1つ、見直しをしていただけたらすごくありがたいと思う。

（文化スポーツ部長）

まず基本的なお話として、冒頭ご説明した通り、構想案はあくまでイメージ、案であるという前提でお話させていただく。

ホールについて、我々はコンベンションホールを、複数視察しており、例えば五反田のコンベンションホールや、日本橋の平土間のコンベンションホールでも、今局委員がおっしゃったように、音響に気を使っているところもあれば、どちらかというイベントスペースになってるところもある。その辺りについては、先ほど申し上げた通り基本計画の中でよりこういう機能を特化すべきかということは議論をしていきたいと思っている。

あくまで基本構想の中では、既存の市民会館の、特に施設規模等を考えた際に、今後どうしていくかということを中心に議論をして、書かせていただいている。

補足をすると、今本市の考え方として、お話に出てきた松戸市の文化会館（森のホール21）というのが、千駄堀の中心部に大ホール1、950席程、小ホールが500席程ということでそれが1つ。

それからもう1つありました松戸市民劇場、以前は一応音響家協会から、音響のいいホール百選に選ばれていた。最近はそうではないのかなと。300席程の、市民の方の利用が中心のホール。

今後市民会館は、いずれはこの文化複合施設の中で、ということになるが、ホール機能、それから既存の、松戸市文化会館、それから市民劇場の3つの体制をいかに維持していくかということ、維持管理も含めて、市としては考えていきたい。

音楽の部分をすべて森のホール21（松戸市文化会館）にゆだねるわけではないが、あちらも築30年以上経っており、計画的な改修とともに、大規模な改修を迎える時期が迫っている中で、どこにどのような性格づけをして、特化していくかということは、市内であ

れば、この3館の機能を、しっかりと定めながら、基本計画の中で、文化複合施設のホールの機能を特化していきたいと考えている。

もう1つだけ、森のホール21は県内では2,000席クラスのホールとして今有数になっており、特に興行面でもそうだが、2,000席のホールというは今減っている。県内だと、習志野市の文化会館が様々な事情で今閉鎖になっており、毎年行われていた習志野の吹奏楽の演奏会が今松戸で開催されている。市川市の文化会館も改装して席数が減っていて、特に興行は松戸のホールを使っただくことも多くなっている。

この審議会には専門家の先生もいらっしゃるので、ホールの規模の最適化と利用ということについては、ご議論いただく部分はあるかと思う。いずれにしても、基本構想の中ではこのぐらいのイメージとさせていただき、新拠点ゾーンの基本計画の見直しに伴う、文化複合施設の基本計画の策定の中で、ぜひご意見をいただきたいと考えている。

(熊倉会長)

音楽ホールにすると、演劇には使えない。先ほど、コンベンションホールとおっしゃったので音楽ホールにするつもりはないんだなと私も思った。

音楽ホールと演劇のホールの違いは、簡単に言えば舞台の上の空間が空いてるか閉じているかの差。

演劇をする場合には、たくさんの舞台装置がおりてくるため、照明を作るために舞台の上にバトンという棒を設置し、それが上下するために、舞台と同じだけの高さの空間が必要。そのため、演劇のホールだと、音楽コンサートをやる場合、音はみんなその上に抜けてしまうので局委員がおっしゃった反響盤と呼ばれるものを設置しなければいけない。純粋な音楽ホールは舞台の天井が閉じている。そのため、両方はできない。

「多目的ホールは無目的ホール」と言っていたのは1980年代のことなので、今その議論をすることは無いと思うが、市はどんなものをイメージしているのだろうか。例えばYCAM(山口情報芸術センター)が例示で出ているが、YCAM程の設備を備えるつもりはないと思うが、何かイメージがあるのだろうか。

或いは市内全体で大規模な2,000席規模のホールではなくて、アマチュアの文化活動を大事にしていく上で、300から500ぐらいのキャパで、割と音楽に特化したものを整備するのか。例えば森のホール21の改修で、小ホールをそういうふうにするとか。もちろん団体数と稼働率の問題もあるとは思いますが。

良いホールがあると逆に他市から演奏に来る。例えばすみだトリフォニーホールという日本一稼働率の高いホールがあるが、全国からあそこで発表会をやりたいというふうに目指してくれる。そのような稼働率をめざせる小規模のものにするのか。

役割をもう少し特化するとか、ここで何をする、このホールで何を作っていきたいのかというのが、今のところ全然見えないというのは事実かと。

(山根委員)

私も現場で全国のいろんなコンサートホールを見させていただいている。

ここでも挙げられているがシリウス（大和市文化創造拠点）やおにクル（茨木市文化・子育て複合施設おにクル）にも伺ったことがあるが、課題としていろんな機能が集約されているというのは、ある意味非常に便利ではあるが、例えばシリウスは大ホールで1,000席ぐらいだったと思うが、それがために音楽のコンサートにしてもできるものが限られてくる。大ホール事業しかできないため、小さなリサイタルであったり、それこそ合唱であったり、そういったものは本当に集客に苦しみというような話も聞いたことがある。

結果的に図書館であったりとか、或いはカフェであったりそういうところにはぎわっているんだけど、ホールは閑散としてみたいなのそういうことも起こりうる。そうそう簡単に全部まとめたからみんな集まるだろうみたいな感じで、おおまかにやってしまうのはいかなものかというのは、私も感じているところである。

(坂委員)

皆様がおっしゃるように、何に特化するかフォーカスしてやらないと、複合施設の場合はかなり難しいと思う。

今回、図書館の老朽化もあって、中央館をここに移すような構想があるが、最近の図書館の潮流は、誰もが集まれる居場所づくりという拠点機能も含むもので、その中に、ホールであるとか、文化施設が複合される。

ここに事例があるせんだいメディアテークやTOYAMAキラリだとか、いろんな形があるので、今後の審議の中で、どういう形にするか。

その時にある程度フォーカスしないと、例えば舞台なら舞台、或いは音楽なら音楽、というふうにしないと、山根委員がおっしゃったように、大きくすれば利便性の部分で非常に難しい部分もある。小さくすると、こんな小さいのか、というような話にもなりかねない。そのため、森のホール21の良さと、その部分の使い勝手を見ながら、こちらの方はこういうものに特化するという形で、今後進めていくということになるかと思う。

特に図書館の部分については、現図書館が老朽化しており、中央館としてここに拠点を移すということは子どもたちにとっても非常にいいことでもあるので、子どもたちの居場所であるとか、いろんな方々がここに集って、情報発信の場として、ただ本を借りて読むというだけではない、身近な拠点になればいいかなと。

今後、こういうのは部局の方で詰めていただくと考えているので、我々もいろんなところの状況を踏まえてお話をしていければと思う。

(熊倉会長)

スケジュール的に、もう1回話せるかどうか。

(文化スポーツ部長)

施設の機能については、先ほど申し上げたがより具体的なところは基本計画で検討させていただく。ホールの、例えば音楽に特化するかとか、舞台に特化するか或いは目的等をここで決めるとか、ご審議をお願いする予定はない。

いろいろなご意見はもちろん伺っていくが、市としては松戸市文化会館という音楽と舞台に特化した非常に良いホールがある。普段市民の方々が発表に使っていた市民劇場と市民会館については、用途が市内の団体の総会であるとか、いろいろな会合でホールが使われている。音楽ももちろん大事だと考えているが、市民会館と市民劇場は音楽専用としてできたホールではないので、それぞれの施設がある松戸駅前の立地ということを考えたときに、何が不足しているかということ、コンベンションホールや多目的利用のホールが必要である。それが今現在の基本構想での市の考え方のため、ご理解いただければと思う。

ただ、その先のお話として、市内の3館を維持する中で、どう音楽機能を専門的に維持していくかというのは、基本計画の中でまたご議論をさせていただければと思っている。

(小島委員)

文化複合施設の基本構想の概要を読ませていただいたが、大変正直に感想を申し上げると、違和感があった。

「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針の5つの戦略を具体的に実践する拠点として、こういったものが位置付けられると考えていたため、縦割りの機能を分けて施設を作ってしまうというのは、5つの戦略を実践する場としては、必ずしも適切ではないという感想を持った。

質問として、この構想案をまとめる上で、視察をした施設はどこか。規模の比較の表があるが、そこへ行ったのか。

参考として、5つの戦略を考える上で、私が調査で関わってるところで非常にいい施設がある。宮崎県の椎葉村にこういった拠点施設のK a t e r i e (椎葉村交流拠点施設K a t e r i e)という施設がある。1つの施設に機能がまとまっているが、その隣には保育園もある。ここは複合施設で図書館もあり、料理ができるスペース、工芸をやるようなスペースも含まれていて、過疎地山間地の人々が、交流できる場所、また村外や海外から労働者として来てる方たちが交流できる場所、そういった複合的な意味合いがある。

この施設で良いと思うのは、扉がないこと。間仕切りがない。保育園が終わった子どもたちが、お母さんがいる料理教室に走って入ってくる。そして子どもが味見をして帰っていく。また、焼き物をやっている人もあれば木工をやっている人もある。

5つの戦略を考えたときに、閉じた空間を組み合わせていくような発想というのは、必ずしもあまり有効ではないのではないのか。この文化複合施設基本構想案の前提が、5つの戦略を実践或いは実行する場としてのものなのか、位置付けを確認させていただけたらと思う。

(文化スポーツ部長)

視察について、令和4年から検討していることもあり、職員で手分けして行っている。

6ページに記載の例示施設の中で、正式に伺っていないのは石川県立図書館と八戸市美術館。ここに書いてあるものだと、大和市文化創造拠点シリウス、米百俵プレイスミライエ長岡、シティホール&ギャラリー五反田、コスモプラネタリウム渋谷、茨木市文化・子育て複合施設おにクル、山口情報芸術センターに行っている。ここに記載していない複合施設だと、武蔵野プレイスというのが図書館を中心とした施設として視察した。

小島委員の質問2つ目、こちらについては、5つの戦略をすべてここで実現できるということではない。

文化複合施設基本構想の成り立ちを説明すると、新拠点ゾーン整備基本構想、基本計画の中で、文化の発信ができるようなものを、ということが位置付けられてる。一方で、具体現実の話として、松戸駅周辺の中で、松戸市立図書館の本館が老朽化、松戸市民会館も老朽化しているという中で、新たに新拠点ゾーンの中でリニューアル、新しいものとして進めていくという背景があった。

従って、立地の話として現在見直しを行っている新拠点ゾーン整備基本計画、現実のニーズとして松戸市の図書館の政策の中で中央館というものを文化複合施設の中に整備をしていきたい、松戸市民会館の機能をどう受け継いでいくか、という議論の中で懇談会を設置した。懇談会は市の職員と、大成委員も入っていただいております、それから図書館協会の方からご推薦をいただいた学識経験者の先生が何名か、基本構想に出てくるところで言うと八戸市美術館に取り組んだ森（純平）さんであるとか、そういった方々をお願いした。その懇談会でまとめたものであるから、順番からいうと、その後に審議会が設置されて、基本方針をまとめる中で、我々としては関連するものとして考えている。

小島委員がご指摘いただいたような部分で、戦略があってこれを実現する施設ということにすべてなっているかということ、必ずしもそうではない。

(小島委員)

私の質問の背景というのは、この間勉強会に参加した際に、プラットホームの議論は大変よくわかった。その中で、森委員から例として挙げられた公民館、私も民俗学の研究をしていて、戦後の生活改善運動が本当に実現できたのは公民館の存在がある。いろんな人たちがいろんな立場でいろんな目的で使える。まさにこのプラットホームとなる施設が、戦後、自治体ごと、地域ごとにつくられた公民館。日本の民主化を実現する、そういった機能を果たしてきた。

そういうイメージでこの資料を見たため、正直何だこれとは感じた。勉強会を受け1つの意識ができたため、これまでの議論とどう繋がるんだろうということを私自身がはっきりとイメージできなかった。そういう意義等でご質問した。

(森委員)

1つ疑問なのは、文化複合施設ができるころ、6年か7年後ぐらいの予定ではないかなと思うが、そこから何年ぐらい使う予定でいるのか。

市民会館が古くなったと話が出たが、この新しい施設も古くなっていく。その頃に、どういう機能だったらいいいのかある程度見越した上で、施設は考える必要があると思っている。しかし、ないものを作るのは難しいので、今後どういう可能性があるのかという視点は要る。

質問2つ目、「多目的ホールは無目的」とは確かに80年代によく言われたことで、そういう視点もある。ただ、今は多目的ホールだからといって、無目的にしないようなものにお金をかければできる。それはそれとしてコンベンションホールというのが、果たしてニーズがあるのだろうか。十分調べられているとは思うが。

都心に行くと、いろんな多目的ホールがある。企業が運営している、主に企業の会議に貸したりとか、シンポジウムに使ったりとかという目的で使用する。果たしてそれを公共が作る意味、なおかつそれが芸術文化の将来にどう役立つのかということは疑問である。

もう1つが、余白が大事という話。基本構想を見ると最初から機能を特化してるから出てこないんだと思うが、例えば私が昔働いていた福島県のいわきアリオス（いわき芸術文化交流会館アリオス）というところには、マーケティンググループがあり、私が着任していたが、最初マーケティングと言われ、そのままだとチケットセールス等に矮小化されてしまうなと思い、施設のマーケティングですという論文のようなものを書いた。この施設にとって必要なのはこういう機能かもしれないし、わからないから、とにかくいろんな市民の人と話し合いを始めるという感じで事業も持たせてもらった。広報的なこともやるし、マーケティング的なこともやるが、マーケティンググループは施設にとって余白のようなグループで、そのグループがあったことによって、いろいろな、アリオスにやって欲しいというような相談や、こういうことできないのかなという相談をされる窓口になっていった。

これが音楽の専門家とか、演劇の専門家となると、なかなか相談の余地がない。比較的広く、全部に答えるとは限らないが、何でも相談にのりますという姿勢を見せていくことに結果的になった。そういう機能をあらかじめ作っておかないと。機能を付け加えるのであれば、そういうのがあってもいいのかなと感じた。

(大成委員)

本当になんかなり時間をかけて皆さんで議論して、ここまできた。

もともとは公園も含めて、新拠点ゾーンのあたりをどういうふうにしていくかという話もしていて、建物の中で完結するというよりは、その辺の環境全体を考えて、どういうふうに人が集まって、今、バラバラになっている、老朽化してきている1個ずつの機能が、この公園のところに集めてきたときに、どういうふうになったらいいいのかという議論をずっとしてきた。

本当にまだまだ議論し足りないというのも私の率直な感想だが、今日皆さんがおっしゃ

っていただいたような意見も本当によくわかる。本当にそこをより詰めていく必要があると思って聞いていた。

この図だと誤解もいろいろ出てくるのかなというところもあり、懇談会では、分かれてる分野が、有機的に繋がっていく方法がないかというのは議論した。7ページの下の図で、交流機能が真ん中を貫いているのは、そういう考えから来ているんだろう。それぞれの分野の専門の人たちで閉じるのではなくて、いい交流の仕方での施設にならないかという話をした。

(森委員)

先程の何年間使う予定なのかという話と繋がるが、例えばデジタルの方をどうするのか。松戸市でeスポーツの取り組みをどれだけしているかはわからないが、スポーツと文化のちょうど両方ともかかるようなところかと思う。そういう機能はいるのだろうと思った。

(山根委員)

新しくできる施設は、おそらく指定管理に回されるのだろうと思うが、私は、指定管理の弊害をどちらかというところ強く感じている。

指定管理というのは、職員の固定費、つまり給料を下げるための方策に成り下がっているところが存分にある。

こういった複合施設で働く方々も、指定管理を受託した会社の職員として働いておられる方がいるが、さらにその下請けのような感じで、現場で働く人の給料が非常に安いという現象がたびたび起こっている。高コスト体質であってはならないとは思いますが、働く人が働きがいのある施設であるということは、必ず必要であると思っている。

やりがい搾取みたいな、あなたはこういう新しい建物で、キラキラしたところで働けるから、低賃金で十分だろうみたいな、そういう考え方がもし出てきたら非常に危険だと思うので、その辺りはよく考えていただきたい。

施設運営というのは非常にランニングコストがかかるものだということを市や県、公務員の方には本当に理解していただきたい。

(熊倉会長)

指定管理を考えているのか。

(文化スポーツ部長)

まず森委員からの3点あったことを簡単にお答えし、山根委員の話も含めてお話させていただく。

まず、使用年数については、今後5年後か10年後に竣工した後、当然、施設の耐用年数として50年、先ほども話が出てきた市民会館だと60年は使っているため、箱としての耐

用年数というのはそのぐらい必要だと考えている。

ただ一方で5ページ目に書いてある視点の中で、3番目の「可変性・多様性・多目的な利用」というのが、最初するときだけではなく、同ページ右の、「小さくはじめて、大きく育てる成長サイクル」というところにも繋がる。機能自体も、陳腐化しないように成長であるとか、発展ということをハードの設計の中に入れていく必要があるかと思う。

壁がない、シームレスという意味では、シリウス（大和市文化創造拠点シリウス）はそもそも壁がなく、全館図書館というコンセプトで、ペットボトルを持って歩くことができ、トータルで1,000席ぐらい学習スペースや読書スペースというものがある。音楽ホールとはかなり分断されているため、その辺の複合化や融合性というのは課題があるのかもしれない。もう1つ、シリウスは指定管理（JV）でやっているところなので、そういう施設も参考にしている。

2つ目として、コンベンションホールのお話があった。

コンベンションホールは広い意味で、企業が見本市をやるような、全国からいろんな方がやって来るようなものもあれば、松戸の場合は、どちらかということ市内にそういったしかりとしたものがない。

例えば、企業もそうだが、先ほど申し上げた市民の活動の発表の場や、例えば学会をするといったときに使われる場がない。大学のキャンパスも近隣にある上、駅前立地ということを考え、そういった活用も見越しながら需要を見ているところ。

例えば専門家に聞いたところ、全国から集まってきた方がわかる駅というのはJRまでだという方がいた。地下鉄だとか案内しづらいという意見もあった。松戸は立地が品川から上野東京ラインで一本。例えばそういった需要も見込めるのではないかということ。

端的に言うと、今そういう施設が駅前にない。文化とちょっと異なると言われると弱いが、そういったことも見越している。

3つ目の運用について。

8ページの「コンセプト実現のための運営の考え方」。我々としては縦割りということも複合施設のお話を聞きに行って、施設の運営している人たちからは伺っている。

例えば図書館は図書館、文化施設は文化施設、というように、連携とは言いながら、それぞれのゾーニングも含めて、線引きがされてるようなところもあった。

そういった話を受けて、最初から館長というものを、ここに書いてある通り、1つの複合施設の中で、相乗効果であるとか機能、空間の融合、クオリティコントロール等を促進する施設運営が求められる施設の館長として置く。コーディネーター、ディレクターをそれぞれに配置して、そこでしっかりと連携運営をしていくということを、この図ではお示しをしている。各担当の役割というのは、ヒアリング等した中で、理想でこういったことができればということを書かせていただいた。すべての正解ではないかもしれないが、こういったことを前提としている。

同ページ下のロードマップをご覧いただきたい。

基本計画の策定にあたっては、専門家の選定と書いてあるが、例えば基本計画を作る段階の前に、館長やコーディネーター、ディレクターというのも、先に候補を選定させていただいて、基本計画の策定に関与していただくという想定がある。

機能の役割等を実現する方が、ハードの方にも計画策定に関与していく体制を先んじて行うことで、理念や目標を実現できるようなプロセス、ロードマップを作るということまで、基本構想の中で想定して書かせていただいている。

指定管理については、今現在全く決まっていない。指定管理が、山根委員がご指摘いただいたような、現実の姿としてのデメリットなどはあると思う。今後、その施設を運営していく上で、こういった形がいいかというのは、今後の議論の中でしっかりと決めていきたい。

(熊倉会長)

学会にはこの規模は小さすぎると思う。

(坂委員)

山根委員がおっしゃったような指定管理について、PFIというのは非常にいい面と難しい面がある。今日本中に広がっているが、専門家が運営するため、利便性を追求して、良くなる部分と、余りにもその方々がリードし過ぎてしまって、こちらがグリップできない、コントロールできないことがある。

専門家の方々からの提案があって、その方向で動くのは悪いことではない。しかし、本来所管する部分を委託しすぎてしまって、全然コントロールできないという部分も見受けられる。

PFIの良いところと悪いところがあるため、その辺りは注意するべきである。実際他の部署、松戸市内の施設でも見受けることもある。

コーディネーターのことで、ここが一番キーマンになる。館長は取りまとめとして、このコーディネーターが、いろんな機能が集まる施設には重要。松戸市の中でもいろんな複合館があるが、縦割りの行政となっており、横の繋がりが無い。ここをコントロールできる方と、PFIにも関係するが、例えば市民自治課があり、教育委員会があり、というところは複合施設の場合は出てくる。図書館は当然教育委員会の範疇であり、ホールは別の管轄かと思うが、機能によってそれぞれ違うはず。そのためその縦割りの部分を打破できる、横の繋がりをコントロールできる、コーディネートする、或いはそれを一緒にスタッフとしてやるディレクター、この役割というのは非常にこの建物をどう活かすのか、今後これらをどうつなげていくかというのは非常に大切なと思う。

そのため今ご説明があったように基本計画の時点から、コーディネーターの方を選任されてその人のご意見をもとに、やっていくというのは良いことだと思う。この選任が非常に難しくなると思う。

各所の良いところをとるのも、良いと思うが、それは規模と周りの条件によってかなり違

ってくる。この辺も基本計画の段階から、どうするかというのをまず決めてやるしかないと思う。

(熊倉会長)

運用する人はすごく重要だと思う。

市役所はこの通りどうしても作りたいのか。

この審議会ができる前から検討していた構想なのは理解するが、この構想は新拠点ゾーン整備基本計画が見直しされる前の構想とほとんど変わっていない。懇談会を通じて、たくさん議論を重ねた上で作られたものということなので、それはもちろん尊重もするし市の事情もあると思うが、正直20世紀的と感じる。

(文化スポーツ部長)

例示の部分については、まだ足りない部分があるかと思う。先ほど話があった音楽の話や、指定管理の話等受けとめていくつもりではある。

熊倉会長からお話あったように、今回お示した一番の理由としては、新拠点ゾーン整備基本計画が見直しになり、その中で今度どここの位置がどうなるか、先ほど公園の話もあったが、どこにどの機能を持っていくかというときに、まず我々として文化複合施設というのはどういうことを考えてるのかということ、一旦提示をさせていただいて新拠点ゾーン整備基本計画の見直しで議論にしていってほしいというのがねらい。

ご意見いただいた部分については実際の基本計画のところ、費用面も含めて取捨選択も入ってくると思うので、具体化をするという意味でデジタルの話等も含めてできればいい。正直に申し上げると基本構想は基本的には進めていきたいと思っているが、審議会の場でのご意見、ご議論は、ぜひ深めていただきたいと思っていること自体は間違いない。

(菊地委員)

私は学校に勤めているため、子ども、児童生徒のことを考える。

この基本構想を見たときに、本当にきちんと作ってくれたらすてきな施設になるだろうと思っている。

子ども達が気軽に行ける場所、また、子どものいる家族がお休みの日に行ける場所。そこで会話が生まれる。例えば、松戸には美術館がないので、アートセンター的な施設になるのかどうかかわからないが、美術的な催しも招聘できると、家族で訪れ、どれが一番気に入った等という会話を日常的にできるようになり、家族の中の文化的な空気が広がっていくと、子どもたちにとっていろいろなものに触れるというのが、ものすごく自分の生活に影響する。

子どもや子どものいる家族が気軽に、そして目的を持って訪れると、他者にも広がって、他市からもいらしていただけるのではないかと。

図書館にしても、今の本館は子ども向け等、いろんな催しをやってくださっているが、どうしても大人の方には本館が狭く、本を借りる、返す機能がメインかと思う。

他市の先進的な図書館の様子を伺うと、本当に広いエリアに、好きなところにとどまって、本と触れ合うだけではなくて、いろいろな催し、交流的な機能もできるような場所が確保されている。好きなところで好きなことができるような催しが行われているので、基本構想の図書館機能がどれほどの面積なのかもわからない中で話しているが、少しでもそういう要素が入ることが、子どもの文化の意識を高め、家族としてのそういう文化的な水準を上げることになっていくと思っている。

決してちまちました施設にならないことを願っている。

(田簗副会長)

正直に申し上げますと、何かすごいものを作るんだなという漠然とした感覚。

まだ先の話なので、具体的にはお答えは難しいかと思うが、中身を、これから議論を深めていくということだが、現実的に、予算規模がどれぐらいなのか等、資材の高騰もあるので、今すぐどうこうするのは本当難しい問題だと思う。その費用感について、お尋ねしたい。

もう1点、資料3の8ページ。防災機能の視点。

最近、非常に大変な大雨が降ったのはご存じだと思うが、今度新しく施設をつくるというときに、どの程度の防災機能を考えているのか。極端な話、そこをないがしろにすると、また大きな災害が起きた際、市民の方々の生活を、命を守るという意味においてもきちんとした方がよい。

例えば、在外の大使館は批判もかなり出た時期があるが、確かに個人的には豪華だなと思うが、邦人の保護ということを考えてときには、ある程度必要な施設。それが豪華と評価されることもあるが、万が一のことを考えたときには、それを維持しないといけないという部分も当然出てきようかと思う。

この2点を、質問としてお聞きしたい。

最後に、要望としてスポーツの視点から、意見を述べさせていただく。

我々は、スポーツは文化であるというふうにとらえているため、この文化複合施設にはスポーツの場所がないじゃないかと言いたくなるが、我が国のスポーツ概念では、「する・見る・支える」となっているため、この文化複合施設は、「見るスポーツ」に特化するという視点があっていいんじゃないかと思う。

例えば、パブリックビューイングをするスペース。松戸出身の有名なスポーツ選手はたくさんいるため、大会等あればここで集まって応援するという、これは立派なスポーツの享受の機会だと思う。それ専用のものとは全然思わないので、何かそういったことに使える機能を持たせていただければありがたいなと思う。

(文化スポーツ部長)

1点目の費用について、現時点では想定してない、これから検討することとなっている。

大きな理由として、どのぐらいの敷地にどのような作り方をするかで当然使える財源も変わってくる。それが新拠点ゾーン整備基本計画の中である程度見えてくれば、サイズ感や機能の整理ということも当然出てくる。そのため今の時点でこのぐらいでいくということが決まったものではない。

2点目の防災機能について、当然この施設に防災機能が求められることも最終的には出てくる。他の公共施設との再編等の話もあると後ろの留意点でも書いてあるが、一方でこの新拠点ゾーンのエリアの中で、どういう防災機能を果たしていくかという議論が、今度またまちづくり委員会や担当部との協議の中でも出てくると思う。

この数ヶ月、熊本や千葉豪雨の話もそうだが、災害については非常にクローズアップされており、先日まちづくり委員会の委員長と自分がお話をした中では、非常に重要視されてるということも伺っている。

その中で、ハードを建てるという時に、どういう役割を担っていくべきか、どういう役割が欲しいかということもあわせてご意見いただきたいと思っている。新拠点ゾーン全体の中で、どういった施設機能が必要かという文化複合施設以外のものも含めて明らかになってくる中で、担うべき役割というものもあるかと思う。

例で申し上げますと、帰宅困難者について、先日の千葉豪雨の際、松戸駅の鉄道が大幅に遅延し、帰宅困難の方を近隣の市民会館で一時受け入れた事例があった。新しい施設ができるという時、その機能を担う中で、そういったことも当然基本計画の検討の中で出てくるかと思う。

(小島委員)

私は松戸市では、博物館のことや文化財保存活用地域計画に関することでお手伝いをしてきた。

博物館は今リニューアル工事中で休館しているが、文化複合施設ということを考えてる時に、博物館との関連をどう考えるかという整合性も必要になるかと思う。

先程お話をした2つの案件に関わった際、博物館で熱心に議論した。文化財保存活用地域計画を作るときも、そこでも熱心に議論した。結局、文化財保存活用地域計画を作っていく過程で、博物館の課題が全くそこでは触れられなくて、博物館を拠点としてビジターセンターとして位置付けなければ、文化財保存活用地域計画の核ができないという議論に切り換えて、文化財保存活用地域計画を作るときには博物館も加わるという形で、現在の形ができて上がっている。

今回の文化複合施設は基本構想案の段階であるため、博物館との関係、それから地域総がかりで作ったはずの文化財保存活用地域計画、これと繋がりをどうするのか、そういった整合性もぜひ基本構想の段階でもう一度検討していただけたら、より市民に身近なものになっていくと考える。

(熊倉会長)

資料3の概要、理念の部分を今日初めて拝見した。我々の推進方針と共通する部分があるようにお見受けした。それに対してとりあえずのたたき台の案かと思う。

図書館とアートセンターとホール・プラネタリウムといった3つの場所が分かれている構想というのが、おそらく30年後には全く機能しない。私はプラネタリウムはいらないのではないかと思うが、松戸市は入れたいようだ。

ある機能を特化させればさせるほど早く古くなる。その機能に大きな予算をかける必要が出てきてしまって、初期投資にお金をかけると、メンテナンスも大きな費用がかかってしまう。機能は8年ごとぐらいに技術が革新する。それについていくだけの将来的な予算が松戸市にあるのか。

「小さくはじめて、大きく育てる」とあるが、箱自体は別に大きくても小さくても、できれば小さくないほうがいいと思うが、細かい分野はどうなるんだと言い出すときりがない。図書館と図書館以外の部分というふうに、こういうこともやりたいんだというふうに考えるのはいいけれども、それぞれの分野で、これが必要と言い出したときりがない。

今お話を聞いていると、その親子で休日をご一緒する、対話が生まれる場所というのは図書館という構想と相反する。図書館は静かじゃないと大人のゾーンから文句がでる。

今日ご意見伺っていて、私が思ったのは、宮崎の話にあったように、21世紀の松戸の民俗学が形づくられていく場所にすればいいのにと。20世紀の非常に分化されたいくつかの機能を、中途半端に分け持つのではなくて、いろんなことが自由にできる場所。

この前勉強会でお話があった、建物は古いがそれを良しとしている秋田市文化創造館でるとか、そういうような場所が良いと個人的には思っている。

私は山形県酒田市の文化審議会の委員もしているが、酒田駅の前の再開発で作ったミライニ（酒田駅前交流拠点施設ミライニ）という場所は、一応市立図書館なんだけれども本屋にしか見えない。図書館と考えた時、普通飲食禁止だと思う。しかし、もっと自由に、シリウスもそうだが、情報の中で活動が自由にできる場所だからみんな行く。静かな図書館だったら、受験生しか行かない。

或いは多くの文化施設の無料で使用できる部分、場所が、高校生たちが集まって勉強する場所にいつの間にかなっている。しかしそういう場所が必要なんだと思う。高校生は飲食店に長いこといられないし、お金もかけられない。そういった、実態としてのそういうニーズもあろうかと思う。

それぞれ似通ってる部分はあると思うので、今想定されている機能にあんまりこだわらず、もう一度、大体の予算が決まったあたりで、おっしゃるように運営方法とか、これを運営する人たちと、ぜひ設計コンペ等をしていただきたい。

この中で事例に出していただいている八戸市美術館。美術館という名前はすごく私は残念だと思っていて、アートセンターと言って欲しかったが。

美術館としての部分は、奥の方に静かに鑑賞するエリア、がやがやするエリアと分けた設計プランが採用された。この写真にも出ているが真ん中にジャイアントルームという巨大な屋根のある公園みたいな場所を作るというプランが、実際運営する、学芸員チームを含めて採用された。私は構想委員会に出ていたが、当時はそんな構想はなかった。

なのでぜひ、こういう場所にしたいんだという理念をもう一度、実際にこれを運営するチームで、何をしたいのかということ、この推進方針や基本構想も踏まえた上で、考えていただきたい。ぜひ、そんな発想ありなのか、というようなものになってくれると、わくわくするかなという気がした。このままのゾーニングだと、おそらくすごく中途半端なものができてしまうのではないかと思うが、その部分はとりあえず置いておくというような形で考えてほしい。

今日皆さんからいただいたご意見で、人が大事というお話もあった。ぜひその運用チームに自由度があるといい。専門で分けてしまうと、本当に連携できない。それぞれを縛る法律が違うこともあるが、ぜひそういう場所にならずに、人にはたくさんコストをかけていただければ、後の運用コストは案外安く済んだりする。

山口情報技術センターもその通りで、ただあそこはクリエーションを中心に置いているので、内部スタッフで大概の実験はつくれてしまうという部分が実は一番大きい、それを市民に還元するワークショップをたくさん開催したりとか、デジタルを駆使した運動会をやってみたりだとか、そういったことをやっている。

文化にこだわらずすごく面白い企画をやるためには、本当は直営じゃないとできない。指定管理のお話もあったが、指定管理を受けてくれるのは業者。儲からなければやらない。そのためか全国のホールのホームページがすごく似ている。同じものにホールの名前とプログラムだけ取りかえるというようなことが多い。金太郎飴みたいになりがちなので、新しいことを創造していく、新しい価値を作っていく、成長するみたいなものには本当に向かない仕組みだと思う。ただ直営だと、人を雇うときに市役所の人事課が面接をする。そこは何かしていただけないのかと思うが。ちなみに八戸市美術館は直営。双方にメリットデメリットがある。

我々の推進方針にそれほど縛られることはないが、できればこれも実現できるような、箱になってくれると嬉しいと思う。

(小島委員)

会長が図書館は静かでないとクレームがくるというお話をしていたが、先ほどお話しした椎葉村の複合施設の中にある図書館はにぎやかである。

なぜかという、図書分類法で書籍の管理はしているが、ここはテーマごとに分けて配置している。例えばカブトムシや虫というコーナーで本を分けているため、子ども向けの図鑑から、林業の話まで、それに関わるようなものが子ども用の本だけ置いてあるんじゃないくて、テーマごとに、年寄りから子どもまでそこにみんな集まって、本を探して読む。そこでいう

んな交流が生まれる。山の中であるから、交流のきっかけを作りたいということで、そういう配架方法を考えた。

「ぶん文Bun（椎葉村図書館）」という名前は蜂のこと。エサを求めて、水を求めて蜂が集まってくるように、本を読んでもらうという、そういう仕掛けをしている。

私は調査に行くたびに、椎葉村のこと調べに必ず寄るが、保育園から帰ってきた子どもたちが、地元のおじいさんといろんな話をしていて、本を通して人が繋がっていくという施設でもある。

図書館のイメージを変えていってもいいと思う。そうしないと交流施設としての図書館、或いは図書室のようなものを作る意味というのが、既存のものをただそこに新しく作ったというだけになってしてしまう。さすが松戸と言われるようなものを作っていたらと思う。

（３）アーツカウンシルについて

（熊倉会長）

先日、勉強会を市役所の様々な部署の方に向けて行わせていただいた。そこで説明したアーツカウンシルについて、勉強会に出席できなかった委員の方もいらっしゃるので、次回以降の審議に向けて、理解を深める時間を少々設けさせていただく。

（森委員）

資料の１０ページ。

地域版アーツカウンシルとあるが、そもそもアーツカウンシルとは何かということからお話しする。

アーツカウンシルというのはイギリス発祥。発足が１９４６年、第二次世界大戦の翌年に始まった。なぜその時期にできたかという、イギリスが対戦してたのは主にドイツ。ドイツは何をしたかという、ナチス政権が芸術をプロパガンダに使ってしまった。

１つの国がそういうふうにしてしまった反省から、政権と、芸術文化に関するセクションは分けたほうがいいだろうということで、できたのがアーツカウンシル。

芸術文化には実はすごい力があって、人の心に直接作用する、人の心を動かしてしまうという機能もあって、それを政権が持たないほうがいいだろうと、それで少し離れたところに置こうということで、時の政権とは別の組織として、アーツカウンシルというものを作った。日本においては、戦後だと教育委員会が同じような意図で作られてると思うが、そういうふうに、首長の権力の及ぶ外におきましようとなった。それがアーツカウンシルの発祥。

そのあと世界中に広まり、直接行政やっている国もあるが、いろいろな国に広がって、近隣だと韓国やシンガポールにアーツカウンシルがある。

ただし、これは国の機関、国として持ってるもの。

日本の場合は、国にも一応あるが、ジャンル特化している等、元来のアーツカウンシルとは趣が違っていたが、ここに来て、地域版アーツカウンシルという動きが出てきた。

アーツカウンシル自体は80年前にできた組織だが、ここ15年、20年弱の間に次々と地方自治体がアーツカウンシルを設立している。ここの資料で言うと、(2)の他の自治体のアーツカウンシルの主な事業に例示として東京と横浜市、さいたま市、長野県が挙がっているが、それぞれに特徴があって、市の政策課題等に、芸術文化の方で、どうしたらよいかという、時の政権とは別個であるといいながらも、政策課題とちゃんと連動している、アームズレングスという、腕の長さぐらいの距離感で、つかず離れず行政とやっていこうというような組織。

アーツカウンシルといわれるところは事業があり、市や区がやっている補助金を再分配するときに、専門的な知見を生かして、補助金を出していく。普通の市の補助金だと、市役所の人が芸術的な視点を持てないため、比較的機械的に点数をつける等、ラインを決めて、これに満たないものは出さないという感じになる。それをちゃんとヒアリングする等、より専門的な視点で選んでいくという、アセスメント機能がある。

そのときに、出して終わりではなくて伴走支援という言い方をするが、出した後に、実際に現場を見に行ったり、途中で相談に乗ったり、そんな機能もある。

もう1つは相談機能といって、今の補助金事業にも紐づくが、いろいろな相談が意外とある。例えば簡単な例だと、この土地に引っ越してきたが、ピアノの先生を紹介してほしい、みたいなライトな相談から、人生相談に近いような相談までいろいろある。そういった相談に時間をちゃんと作って、答えていく。

もう1つは、政策提言。それからパイロット機能というものがあり、政策提言というのは、アームズレングスの距離だが、専門的な見地から行政の人が考えないようなことを提言としてやっていく。あとは実際に、こういうイベントがあったらいいんじゃないか、こういう事業があったらいいんじゃないかというのを、試しにやってみるパイロット的な機能がある。

先程挙がっていた例示で言うと、東京都の場合は非常にやっていることが多岐に渡っている。あとは東京オリンピックがあったので、オリンピックの文化プログラムをやるという機能もあり、基本機能がありすぎてちょっとわかりづらいかと思う。

横浜市の場合は、アーツコミッション・ヨコハマというのが、国内のアーツカウンシルの走りだと言われているが、ここも今はそれほど大きくなく、4代前か3代前の市長の時にできたもので、市長が代わって行って、ちょっとずつ違っている。当初は横浜であるから、歴史的な建物を生かしたまちづくりのようなことがちょうど行われ始めた頃、ライトアップ等が有名かと思うが、その頃、都市に眠るクリエイティビティ想像力をまちづくりに生かしていこうという視点で、アーツコミッション・ヨコハマは事業展開した。

例えば、芸術不動産という事業があったが、これは関内という横浜の官庁街等と合わさっている場所にある古い建物、関東大震災の後に建てられた少し近代的な建築をリノベーション

ンして、そこにデザイナー等、クリエイティブな仕事に就いてる方を入居させると市の方で改修に対して補助金を出すという事業があった。今は横浜の全市に広げていて、18組のいろんな拠点を活用した、アーティストインレジデンスという事業をやっている。ただ、現在は縮小傾向にあると伺った。

さいたま市は、私が立ち上げに携わり、初代のディレクターをやった。アーツカウンシルさいたまは先行事例を見ながら、バランス良くいろいろな事業をやった。

長野県の信州アーツカウンシルは県域でやってるものだが、これもお手伝いをしていて、非常に広いエリアが対象で、仕事の半分以上は移動時間になってしまうが、これも市民の人がどうやったら芸術文化でおもしろおかしく暮らせるか、暮らしを豊かにしていけるのかというような視点に立って、伴走的に支援をしている。

アーツカウンシルというのは、先ほど文化施設のときにも余白が大事という話をしたが、いわば、芸術文化に関するよろず相談所的な位置付けの組織であるかなというふうに、私自身は考えている。

(熊倉会長)

繰り返しになるが、まずは補助金・助成金を一旦行政から預かって、それをどこに配るかという時に、行政がやるとどうしても既存のものに、実績を踏まえて出しがちになる。しかしそこは常に、政策に対する評価を含めてほしい。

新しい文化政策を担う、例えば、我々のこの推進方針を担ってくれるには、これまで行われているような文化事業では、それを否定するわけではないが、足りない。

もっと複合的に、以前の審議会で、松戸市にはたくさん人材がいて、この人とこの人が一緒にやったら、こういうことができるんじゃないだろうかというような話もあった。

随分前に羽賀委員から、障害者スポーツはみんな関心がないわけじゃないけど誰も見に来ないという話があった。

これが例えば1つの課題を解決するにはどうしたらいいんだろうかみたいなことであるとか、文化施設というのを作ってしまうと文化施設の中のコンテンツを埋めるのも、先ほど山根委員がおっしゃたように、そもそも人材ぎりぎりしか配置してくれないので、基礎自治体すべての小中学校にアウトリーチ活動的なことをするべきだと思うが、そこまで人材が来ない。

松戸市にどのぐらい音楽や美術の専科の先生がいらっしゃるかわからないが、その先生方のご理解を得るだけでも結構大変。例えばプロの音楽家と小学校の音楽の先生、なかなか意識が擦り合わないとして、その間に立って、丁寧に関係を紡いでいって、取り敢えずやれて良かったではなく、きちんとこういうことを子どもたちに今度は理解してもらえるといいねみたいなことを話し合いながら進めるような専門家がいないと、とりあえずできて、やったで終わってしまう。そんな手間までホールの職員はかけていられないので、そういったところを丁寧に作っていく。

それから大事なのは、今森委員がおっしゃったアドボカシー機能。

地域内にどのような資源があるのか。以前この審議会の中で、ゲストスピーカーに来ていただいたが、これだけ人口が多い松戸市の中に、クリエイティブ人材は非常に多いというお話を伺った。民間同士で一緒にやってはいると思うが、行政とタッグを組んで何かをやる等、新しいこれからのあり方、我々が作った推進方針にある交流であるとか、対話であるとか、そういったものが目に見えて実感できて、これは良いと思ってもらえるような、モデル的な文化事業を作る。こういうことやっていただけると、助成金が出せる、というような助成金を作り文化政策を常にリニューアルしていく。

そして、地域にいる人、場所、或いはどんな企業があって、どことつないだら面白いことができるだろうかといったような、これまでは接続していなかったものを接続させるコーディネート機能も持つと思う。

そうした普段の事業がある中で、3年経つと別の推進計画を立てたり、アクションプランを作ったりするけれども、実態を反映した、どこに力点を置くと面白いことになるか等を絞るのに、どうしても審議会では資料が足りない。そういったところに、具体的なプランを提案したりすると、審議会がお飾りではなくなると思う。

助成金を市から預かって、この審議会が決めた文化政策を具現化していくための新しいモデル事業を作っていく。もちろん従来活動にも支援をするが、それぞれのお困りごとに相談に乗る等、全部を松戸市の予算に頼るばかりではなく、それぞれどういうふうな稼ぎ方、例えば外の助成金を取るにはどうしたらいいのか、企業のニーズにこたえていくのをアレンジする、そういったような相談に乗っていくというようなこともある。

20世紀を通じて細分化してしまった芸術分野の横串を通していく。或いはこの審議会が文化とスポーツなのは、先ほど田蓑副会長からも非常に興味深いご提案があったが、例えば基本構想について、市役所を新拠点ゾーンに作らないのなら、アーバンスポーツ施設とか作ってもいいのではないかな等、文化は文化、スポーツはスポーツというふうを考えるだけではなくて、両方合わせた何かを考えられないだろうか、そういったことを、複合的に考えていく。

先ほどの文化複合施設に関しても、「まちとつながり、活動がまち全体に広がることを目指します」と書いてあって、これは本当に文化施設には難しいこと。単に人手が足りないからということもあるが、出て行こうと思わない体質の人が多いの現実。最近の文化施設はそういう人材を取る。それが政策と連携しないと難しい。例えば教育委員会の理解をどう取っていくのか、或いはこれから子どもの数が減って行って、学校が1つの地域活動の拠点となっていく自治体も多い中で、そこにどう文化活動を絡めていけるのかということは、政策横断的に話し合えないとなかなか難しい。

勉強会でも申し上げたが、非常に縦割りが進んでいる日本の行政の中で、違う課同士が連携をすることは事実上ほとんどできない。形作ることではできるけど、本質的な問題を一緒にどう考えるかという議論は何故かできない。そのため、アーツカウンシルのような第三者機

関があると、新しい協働のあり方みたいなものが模索できるだろうということで、政策の横串を刺すという機能も、時間をかけて人が育っていけば、期待される効果ではないかと思う。

今、せっかく新しい施設等を作るのであれば、官民両方で文化活動が様々な形で盛んである松戸というこの土地を考えると、その間をつないでいくというような、プラットホーム機能が、最初は、新しい接続、出会いをアレンジするみたいなところから、10年ぐらいかかるとは思うが、こういう政策を本気でやっていくんだということを象徴する機関として、名付けてみるといいのかなと。

芸術文化を振興するに加えて、今の文化政策は、国も含めて、芸術文化でまちや暮らしが豊かになるにはどうしたらいいかという新しい時代。21世紀、2001年文化芸術振興基本法が、さらに2016年、振興が取れて文化芸術基本法になって、どんどん進んでいる。でもそれを具現化するには、非常に分野間の蛸壺化、行政、芸術分野間の蛸壺化や、行政分野の縦割りの状況が非常に阻んでいく中で、横串を通してどう考えられるか。

障害者芸術という枠の中に、これも新しい法律できたが、閉じ込めておくだけではなく、障害者スポーツという分野、その分野の支援はもちろん必要だが、その分野がもっと広まっていくために他の分野とどうつながれるのかということ、アーツカウンシルの人たちだけではなくて、市民みんなが、普通に発想できるようになると、プラットホーム完成なのかなと思う。

(森委員)

アーツカウンシル松戸版を作るというのは、文化施設を新しくするのと同じような感じで考えているのか、全く別で考えているのか伺いたい。

私自身は、アーツカウンシルもやっていたし文化拠点もやってたが、文化拠点にこういう機能があればいいのにとというのがアーツカウンシルの機能と思っている。せっかく新しく作るのであれば、例えばその前からアーツカウンシルを走らせてしまって、そこでいろいろコーディネーションする中で、いろんな人と出会う等そういうのがあって、オープンするときにはもう耕されているという状態にするのは1つの方法かと思う。

(文化スポーツ部長)

当然、文化複合施設の話が進んでいく中で、今回の方針の中でご提言いただいているものを組み込んでいくことは十分あると思う。

アーツカウンシル自体をどうしていくかということをもさに今、我々も学ばせていただきながら、具現化していきたいと思う。間口のところはかなり広く取らせていただいて検討できればとは思っている。そういった視点をお示しいただければありがたい。

(熊倉会長)

先ほどのアーツコミッション・ヨコハマが創造都市横浜という文化政策を掲げたとき、実

は横浜は文化果つる都市だった。

多くのクリエイティブ人口が横浜に住んでいるけれども、仕事は東京に行っている。つまり、事務所は東京にある。

拠点を置いている文化活動団体も、普通に市民で音楽をやって美術をやったりしてる人はいたが、プロフェッショナル集団がほとんどなかった。

景観だけが観光に寄与しているという状況。それも2000年問題に向けて、景観はいいけれどもビル自体が古く、このAI時代に適用しない。ものすごく空き室状況が増えていて、危機感を抱いた横浜市が、文化都市にしようということで、事業を始めた。

先ほど森委員おっしゃったように、家を引っ越すだけでは駄目。アーティストが横浜に引っ越してくるだけじゃ駄目で、事業拠点を横浜に置いてくれるのであれば最初は引っ越し代も含めて30万円ぐらい出します、場所も紹介します、その拠点の引っ越し代も出しますぐらいの、時期があった。今更これを松戸でやる必要はあまりないと思うが。

まだアーツカウンシルという言葉が日本になじみがなかったところで、各地で、文化政策の実現に向けてそれぞれ自由に考えなさいという中で、全国で今幾つぐらいあるのだろうか。

(森委員)

数え方は難しいが20から30ぐらい。

(熊倉会長)

森委員がおっしゃったように機能が収斂されてきて、大体3、4パターンくらいになった。どこに重点を置くかは、それぞれ違うが、日本型のアーツカウンシルの形が見えてきたかというところ。

あまり大きな自治体規模じゃないほうが機能しやすいと思うが、今一番評判が良いのは信州だろうか。

(森委員)

評判が良いかどうかはわからないが、信州は比較的やることを絞っているため、長野県にはこれしかないのかというような団体の数だったりするが、その分伴走支援を厚くしており、比較的うまくいってると思う

あとは静岡県のアーツカウンシルがいいんじゃないかと思う。

(熊倉会長)

次回11月また皆さんとお目見えすることを期待しながら、市がどんなことやってるのかとか、見ていただいて、松戸にもし、作れるのであれば、こんなことが期待される、必要か必要でないかといった議論も含めて、秋以降、少し議論を深められればと思う。

(局委員)

松戸はいろんなキャッチフレーズがある。一番皆さんが目にするのは「やさシティまつど」だと思うが、「音楽のまちまつど」というスローガンもある。これは松戸市と教育委員会の方から打ち出されてるスローガンの1つ。

あとは、戸定邸や博物館等、そういう部分を良くしていこうという、「文化の香る街松戸」というのもある。

何を目指していきたいのか。すごく欲張ってる部分大きいという印象がある。

今回、「文化スポーツ創造のまち・まつど」と書いてあり、何か統一した、市民の皆さんが、音楽やってる人は「音楽のまちまつど」を推奨して、芸術の方々は「文化の香る街松戸」を推奨すると思うので、何かまちの人たちがみんなでこの「文化創造のまちまつど」というところを、より簡単なキャッチフレーズでもいいと思うので、これからの複合施設を作るにあたり、共通認識できる、方向性がわかりやすい物を何か作っていただけたらいいかなと。

(熊倉会長)

これ以上因数分解できないと思う。

何かのまちって言ってしまうと、例えば音楽のまちは錦糸町も音楽都市を標語しており、音楽都市には程遠いと思うが、すみだトリフォニーホールはすばらしいホールだと思う。しかし、文化香ると言っていないまちの方が少ないと思うが、なかなか難しい。

もう少しスローガン的に何を目指しているのかが、アクションプランの後に出てくると面白いかなと思うが、何となくまだ他人事のように掲げられていて、私としては、芸術のジャンルに捕らわれずに、みんながみんなでみんなのためにやる、みたいなのがもう少し文化にあってもいいのかなと思うが、何かそういうワードがアクションプランの中から出てくると良い。

(菊田委員)

非常に議論の内容が、それぞれの専門分野に特化されていて難しい。言葉の理解そのものもそうだし、資料を拝見していても、一市民として拝見すると、何か建物ができることが決まっているという印象。

今度こうやって、たくさん話し合いをして、箱物ができていたり、中身の内容をどうするかということが決められたりしていくんだらうな、ということはぼんやりと見えはするが、何をする建物なのかというところが、一市民としてちょっと見えにくいという印象は受けている。

また、市役所の場所が大きく変わったということに伴って、こちらのプランそのものあまり大きな変更がなかったというお話も先ほどしていたかと思うが、それにはすごく大き

な違和感を覚えた。

(熊倉会長)

これで議事は終了とする。

2 その他

- ・文化スポーツ部長挨拶。
- ・事務局から事務連絡。

閉会